［ 米子市小体研
２９年度のあゆみ ］

研究主題

確かに　そして　豊かに　学び合う　体育学習の創造

１　研究の仮説

仮説１

児童の実態を把握したり、身につけさせたい力を明確にしたり、指導過程や指導方法や支援の仕方を工夫すれば、基本的な技能や体力、知識を獲得することができるとともに、一人一人に満足感や達成感を味わわせることができるであろう。

仮説２

互いに話し合う活動など、友だちとの関り合いを重視した体育学習を展開すれば、コミュニケーション能力や論理的思考力を培うことができるとともに、仲間と一緒に運動する喜びを味わわせることができるであろう。

２　研究の視点

県の５つの視点にそって米子市も研究をすすめる。

①学習内容の明確化
②学習過程の工夫
③効果的な指導
④言語活動の充実
⑤形成的学習評価やデータを活かした授業改善

今までの取り組みを整理し､新学習指導要領を意識した学びをどう作り上げていくか考えていく。

３　今年度の主な活動内容

○米子市小教研専門部会　研修会
　第１回　　５月１９日（金）　車尾小学校
　第２回　　８月２２日（火）　車尾小学校

○授業研究会
・全体授業研究会
　高原　大和　先生（彦名小）
　「とびっこ名人　～みんなでジャンプ　彦名の子～」（２年：走・跳の運動遊び）
・領域別授業研究会
　畑田　亮太　先生（明道小）
　「ぐんと伸びろ！コンビネーションスイミング」（５年：水泳）
　石田　康介　先生（五千石小）
　「ボールをつないでナイスアタック！キャッチバレー」（５年：ボール運動）
　山中　卓　先生（加茂小）
　「動きをつくろう　レッツ ダンス」（６年：表現）

○実技研修会
・着衣泳の指導の仕方　・水中での事故の対応について　・熱中症予防について
　講師：水難学会　皆生ライフセービングクラブ

○実践研究集録「飛翔」発行

○なかよし一輪車交流会　７月２３日（土）　福生西小学校

○スキー教室のためのスキー研修会　１月４日（水）　大山ホワイトリゾートスキー場

○各種研究大会。研修会参加
・県小体研夏季一泊研修会　８月８日（月）～９日（火）　水明荘、東郷小
・中四国小学校体育研究発表大会（香川大会）　１０月２７日（金）　丸亀市

「とびっこ名人への道～走ってとんでおたからゲット！～(２年)」の実践を通して

米子市立彦名小学校　　髙原　大和

１　はじめに

走・跳の運動遊びは，走る・跳ぶなどについて，仲間と競い合う楽しさや，調子よく走ったり跳んだりする心地よさを味わうことができる運動である。また，体を巧みに操作しながら走る，跳ぶなどのいろいろな動きを身に付けることを含んでいる運動であり，活動の仕方や場を工夫することで，どのような力をもった児童においても競走（争）に勝つことができたり，意欲的に運動に取り組むことができたりする運動である。本校の２年生を対象にした運動に関するアンケート調査では，「遠くに跳んだり，高く跳んだりすることが得意である」と答えた児童が７９％であった。それに反して，新体力テストの立ち幅跳びの結果では，平成２８年度全国平均値を下回っており，児童たちに正しい跳躍動作が十分に身についておらず，実際に身についている技能と児童自身の捉えにギャップがあることが窺えた。そこで，本実践では活動ごとに自分に合った目標を設定したり，「遠くに跳ぶ」「高く跳ぶ」「連続して跳ぶ」ためにはどうしたらいいのかを児童同士でアドバイスしたりすることで，運動が得意，苦手に関わらず「できた」と感じることができ，跳ぶ技能を十分に身に付けることができると考えた。

２　研究の実際

（１）単元計画の工夫

○「様々な跳び方の試練を友だちと協力して乗り越え，お宝をゲットする」というストーリー性を持たせることで，単元を通して児童の活動意欲が高まるようにした。

○運動が苦手な児童も意欲的に参加できるように,「最終的な記録－初めの記録」から「個人の記録の伸び」を求めて得点とした。

○チームで協力して試練を乗り越えるという意識ができるように，どの活動もメンバーの「個人の記録の伸び」を合計する「チーム得点制」を採用した。

<table>
<tr><td colspan="2"></td><td>１</td><td>２</td><td>３（本時）</td><td>４</td><td>５</td><td>６</td></tr>
<tr><td colspan="2">主なねらい</td><td>学習の進め方を知ろう。</td><td colspan="3">様々な跳び方に挑戦して、自分の得意な跳び方を見つけながらとびっこあそびを楽しもう。</td><td colspan="2">跳び方を組み合わせたり、跳び方を工夫したりして、とびっこコースを楽しもう。</td></tr>
<tr><td colspan="2">核となる学習内容</td><td>進め方、用具の使い方、試しのとびっこあそび</td><td colspan="3">様々なとびっこあそび
跳び方のポイント</td><td colspan="2">様々な跳び方が複合されたコースでとびっこあそび</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習活動</td><td>・オリエンテーション</td><td colspan="5">ドリル運動（跳の感覚を養う運動）
様々な跳び方の試練を乗り越えよう
・ゴム跳び
・とび箱飛び降り（手たたき）
・ねらい跳び
・ダンボール幅跳び
・輪跳び（ケンケン、ジグザグなど）
・ダンボールリズムジャンプ
・とびっこコースで力試し（高く跳ぶ、遠くに跳ぶ、連続して跳ぶ）
学習のふり返り（工夫の紹介）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">評価の計画</td><td>関</td><td>③④</td><td></td><td>②</td><td></td><td></td><td>①</td></tr>
<tr><td>思</td><td></td><td></td><td>②</td><td></td><td>①</td><td></td></tr>
<tr><td>技</td><td></td><td>①</td><td></td><td>①</td><td></td><td>②</td></tr>
</table>

「とびっこ名人への道～走ってとんでおたからゲット！～」単元計画

○１時間ごとに，前時で学習した動きを生かした活動を取り入れることで,「高く跳ぶ」「遠くに跳ぶ」「連続して跳ぶ」技能を，段階を追って身に付けることができるようにした。

○単元の後半では,「高く跳ぶ」「遠くに跳ぶ」「連続して跳ぶ」の３つの運動が複合されたコースで活動を行った。３つの運動が混ざることで力加減やリズムなど，次の動きを考えながら運動する力を伸ばせるようにした。

○授業の初めに，跳の運動に繋がるゲーム的な準備運動を継続して行うことで，児童が楽しみながら跳の運動に必要な動きづくりができるようにした。

（２）用具・場の工夫

○１グループの人数を少なくしたり，各グループに１つの活動場所を設けたりすることで，児童の活動量を確保した。

○一方向に向かって跳ぶように場を設定することで，活動中の安全を確保し，教師が児童の様子を見取りやすいようにした。

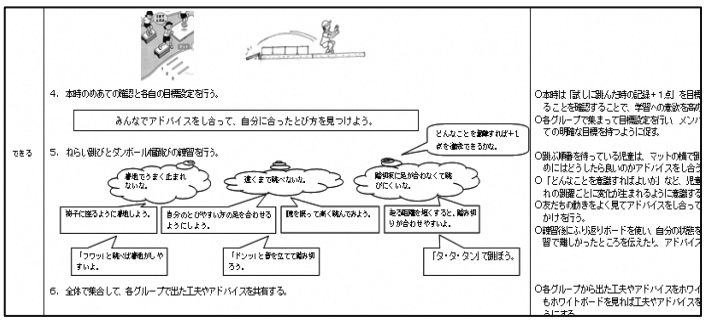
○本時のねらいや活動のルールなどをホワイトボードに掲示することで，児童が視覚的に本時の学習を理解し，意欲的に学習に取り組むことができるようにした。

ねらいやルールなどをまとめた板書

（３）言語活動の充実

○友だちの跳ぶ様子が良く見えるように，また，すぐアドバイスができるようにするために，児童をマットの横で順番を待たせることにした。

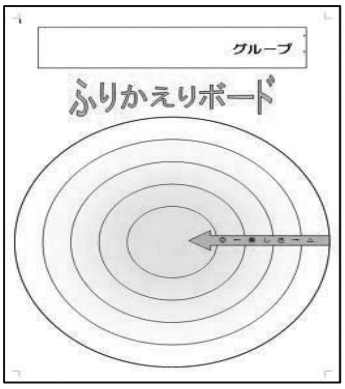
○児童同士でアドバイスができるように，「どんな跳び方がいいのか」「跳んでいる友だちのどこに着目したらいいのか」など，児童の思考を促す言葉かけを意図的に行った。



児童の思考を促す言葉かけを示した指導

○学習の振り返りでは，ふり返りボード（楽しさの度合いを示す）を活用することで，グループごとに話し合いを行うことができるようにした。

○１時間ごとに出た児童のアドバイスをホワイトボードに掲示していくことで，「高く跳ぶ」「遠くに跳ぶ」ために大切なポイントを自分で意識したり，友だちにアドバイスをしたりするときの手掛かりにした。



活動の「楽しさ」を表すふり返りボード

３　成果と課題

（１）成果

○１チーム３～４人にし，各グループに１つの活動の場を設定することで，児童の運動量を確保することができた。また，１チームの人数が少ない分，児童一人ひとりが自分の考えを話す機会を設けることができ，積極的に話し合いに参加することができていた。

○チーム得点制にすることで,運動が苦手な児童も進んで活動に参加することができていた。また，メンバーの「個人の記録の伸び」がチームの得点に結びつくため，運動の得意・苦手に関わらずチーム内でアドバイスをし合う姿が多く見られた。児童のふり返りシートを見ると,「○○さんのアドバイスのおかげで記録が伸びました。」という内容が多くみられ，児童同士のアドバイスが記録の伸びに繋がっていることが窺えた。

○単元を通して，１時間ごとにポイントをため，最終的にお宝をゲットするというストーリーを設定したことで，児童の「跳の運動」に対する意欲を継続することができた。また，使用した段ボールに岩のイラストを貼り付けるなど教具を工夫することで児童の興味を高めることができた。

（２）課題

○本実践では児童同士のアドバイスを重視しすぎたために，教員から児童に対しての指導言が少なかった。児童が自分たちで気付きアドバイスをすることは大切なことではあるが，教師の指導により,技能を身につけるために必要なポイントや児童同士でアドバイスをするための「見る視点」が明確になる。また，児童同士のアドバイスが活発にするために，教師の指導言を多数準備しておく必要がある。「ダーン」「タ・タ・ターン」などの擬音を上手く使うことで，良い動きのイメージを他者にわかりやすく伝えることができる。そのために，教師は児童が親しみやすい擬音のレパートリーを増やしていくような指導を行っていく必要があると感じた。

○低学年として，ふり返りの視点をどのように捉えさせるかという点に難しさを感じた。ふり返りボードを用いた時に，全員が初めから満足のいく評価をしており，意識の高まりが感じにくかった。ふり返りの仕方や視点を工夫していく必要があると感じた。

「わたしたちの体育」を活用した実践例　～ぐんと伸びろ！コンビネーションスイミング～

米子市立明道小学校　5年　畑田　亮太

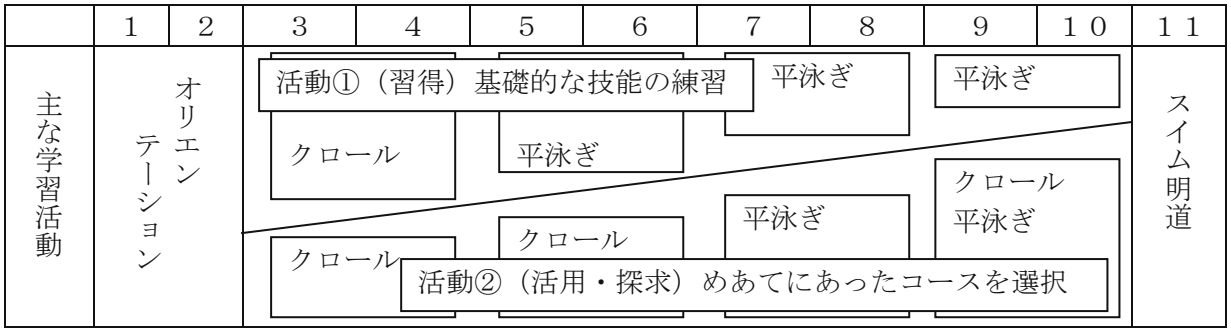
1．はじめに

水泳は，身体各部位の動作のバランスがとれた全身運動となっており，より長く，より速く泳ぐ練習を通じて，身体の調整力はもとより，筋力，持久力を高めるなど，身体の調和的な発達を図ることが期待できる。

本学年の児童は，水泳学習に興味をもっている児童が多い。しかし，技能面では個人差が大きく，泳ぐことが得意な児童もいれば，泳ぐことに抵抗を感じ，顔をつけることが苦手な児童もいる。また，クロールを25m以上泳げる児童が6割以上いるのに対して，平泳ぎを25m以上泳げる児童は2割程度とわずかであり，苦手と感じる児童も多い。

2．指導の実際

（1）単元の計画



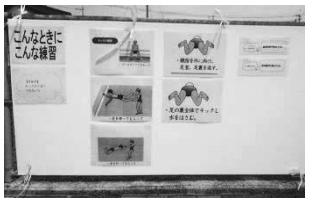
（2）指導の工夫

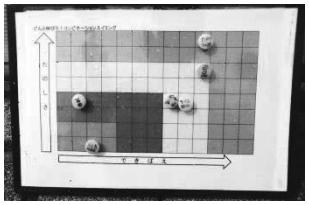
○単元構成の設定

・単元の前半では「活動①」（習得）の時間を多く取り，後半になるにつれて，「活動②」（活用・探求）の時間を増やし，単元全体でクロールと平泳ぎに取り組み，両方の習得ができるようにした。

○活動②における場の設定

・「ロングスイム」「スピードスイム」「じっくりキック」「じっくりスイム」の4つのコースを設定し，アドバイスボードをもとに自分の課題を確認し，コース分けをした。





○活動②における2学年合同（5･6年）でのグループ編成

・単一学年で水泳学習を行うより教員数が増え，よりきめ細かく児童の活動を見取ったり，アドバイスしたりすることができると考えた。さらに，教員数が増えることで，児童の技能レベルにマッチした「場の設定」（コース）をすることができ，より個に応じた指導が可能であり，学習が深まると考えた。

○言語活用の充実

・上達のポイントが視覚的にわかるように「わたしたちの体育」の挿絵を拡大し，コース脇に設置したことで，イラストで手や足の動きを確認したり，友だちにアドバイスしたりするための視点として活用した。

・学習の最後に，振り返りの場を設定し，「ふりかえり板」を活用して自己評価した。ペアで同じ「ふりかえり板」を使用し，互いの達成感や困り感を共有できるようにした。

3．成果（○）と課題（●）

○児童が「わたしたちの体育」の挿絵を見て，泳ぎ方のポイントを押さえながら，話し合う姿が見られた。

○クロールを25m以上泳げる児童が8割以上，平泳ぎが25m以上泳げる児童が，3割以上に増えた。

●平泳ぎの手足の動かし方について自分の課題をはっきりさせるために，泳ぎの一連の流れが確認できる動画も活用するとよかった。

●「わたしたちの体育」の挿絵をフローチャートで「この動きができたら次はこの動きに挑戦してみる」というふうに掲示し，泳ぎのスモールステップがわかるような工夫をするとよかった。